

2008 年度

科目名 ゼミナールⅠ	対象学科・学年 人間社3回生	担当者 岡島 克樹
授業テーマ 国内外の社会課題の原因と解決・緩和の取り組みについて学ぶ		
授業の概要と目標 ゼミ生それぞれが地域研究実習で選択したトピックについて、さらに幅広く深い知識と理解を得るために、文献読解を行う。また、自分が理解した内容を他の人と共有するためのコミュニケーション能力を高めるために可能な限り多く発表の機会を設ける。		
評価方法 出席点 50 点とゼミへの貢献（自分の発表、他のゼミ生の発表への質問等） 50 点		
テキスト 下記を参照のこと	著者	出版社
参考書 適宜指示する	著者	出版社
授業スケジュール・内容 本年度のゼミでは、地域研究実習の実習先との関連で、ゼミ内に以下の 2 つの班を形成し、それぞれに学んだ結果をもう一つの班に伝えるという構成をとる。 (1) 国内班： 日本国内にある社会課題、とりわけ、本年度は「格差」ということに注目して、それがどのような諸要因に基づき発生しているのか、またそれに対して行政や市民社会（NPO など）はどのように対応してきているのかについて、文献調査を行って、途中報告し、またその結果を発表する。 国内での地域研究実習を希望するゼミ生は、以下の書籍をすべて購入し、そこに何が書かれていたかを読んでいない人にもわかるように解説してください。 1. 橋本健二 (2007) 『新しい階級社会・新しい階級闘争—「格差」ではすまされない現実』 光文社 2. 赤木智弘 (2007) 『若者を見殺しにする国—私を戦争に向かわせるものは何か』 双風舎 3. 平井玄 (2005) 『ミッキーマウスのプロレタリア宣言』 太田出版 4. 丸橋恭一他 (2004) 『若者たちの政治革命—組織からネットワークへ』 中公新書ラクレ これまでの基礎ゼミでレジュメの書き方などの指導を受けていない場合は、申し出ること。丁寧に指導していきたい。 (2) カンボジア班： カンボジアの歴史や社会経済状況、行政・政治システムについての基本的な知識を得るための書籍や論文・記事は数多く存在するが、この班では特に以下の書籍の 2-3 章ずつを班員が担当して要約し、発表を行う。また、昨年度は立命館大学国際関係学部とのゼミと合同で事前学習を行った。今年度は、不透明ながら、他大学や NPO などからパートナーを見つける努力を継続し、ゼミ生が狭い大学内に留まることなく、いろいろな人とコミュニケーションし、刺激を受けながら地域研究実習とゼミを行えるよう、教員としても努力する。 上田広美・岡田知子編 (2006 年) 『カンボジアを知るための 60 章』 明石書店 いずれの班も、何かについて「知る」という過程では、文献調査とともに、フィールド（現場）に出て、自分の目で見て、聞いて、肌で感じて、人に尋ねて、情報を集めてくることが欠かせないということをゼミと地域研究実習を通じて理解してもらいたい。また、チームで動くためには、それぞれのメンバー間や担当教員への早めの「ほうれんそう（報告・連絡・相談）」が重要であること、また学生間においては一人ひとりの個性を認め合うことが不可欠であることを覚えてもらいたい。		